



## 子どもからお年寄りまで 地域で楽しむスポーツ

大阪・生野区 総合型地域スポーツクラブ  
「たつみスポーツクラブ」





「試合に勝つために練習するのはやめてもらう。初心者が楽しめるようにやる」ときっぱりと言う谷口正理事長。

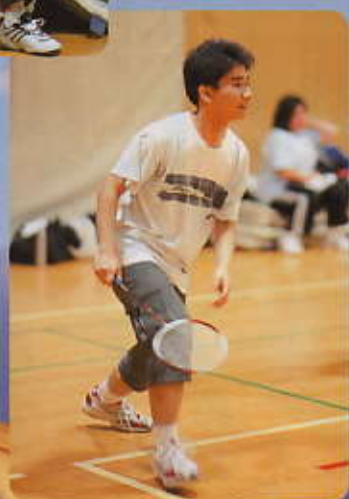
生野区立巽小学校の校庭と体育館を使用して、平成十四年四月からスタートした総合型地域スポーツクラブ。「下駄履き普段着で行ける地域のスポーツクラブがモットーです」とのこと。

読者の中には「総合型地域スポーツクラブ」というものに馴染みがない方も多いだろう。多目的のスポーツを多世代で楽しむ、そのためのクラブ運営も地域住民が会員となって行なう、いわば受益者負担の自主運営型・複合型スポーツクラブのことだ。文部科学省の指導のもと全国で取り組み始められているスポーツクラブである。

たつみスポーツクラブでは、ジュニアの部で、卓球、バスケ、バレー、テニス。大人の部で、太極拳にバドミントン、テニス、ソフト、バレーなどと、子どもと大人あわせて十三種のメニューを用意している。小学三年生から最高齢七十三歳までの老若男女が、思い思いのスポーツメニューに参加して、いい汗を流している。会員は二百九十六名、百七十一家族。事務局長を努める山野寿一さん一家は三世代で会員となっている。「これができるまでは全くのスポーツ無縁一家だったんですけどね」。

「楽しみ以上のもの、つまり競うスポーツはね、





よそでやってもらえばいい」と谷口さんは言う。すばらしいスポーツ選手を育てるのではなく、スポーツをするきっかけ、スポーツの楽しさを知ってもらいたい、こんな思いがスタッフの共通した思い。だからこそ地域で、小学校でということにこだわっているのだ。そして、中心メンバーの多くがPTAのつながりをずっと持っていたということが、このクラブの運営をよりスムーズにしていた大きな理由のようだ。

クラブ会費は、大人が年間一万円、小学生で千円、中学生と高校生がそれぞれ二千円、三千円となっている。指導者も原則無報酬のボランティア。その上会員として会費も払っている。

スポーツクラブの理事であり、巽小学校PTAの副会長の松浦浩一さんは、ジュニア卓球の指導員として子どもたちを相手にラケットを振る。その中には小学二年生と四年生の松浦さんのお子さんの姿も見られる。「もうアカン、体力の限界や」と言いながら「大人が楽しんでますねん」と松浦さん。

途中から参加した古川勝久校長も子ども相手の真剣スマッシュに「子どもたちもずいぶん上手になってますから、私も必死ですもん」。

ジュニアバレーボールを指導するのはなんと、東京オリンピック女子バレーボール金メダリストの丸山（旧姓・磯部）サタさん。ここでも子どもたちの伸び伸びとスポーツを楽しむ姿が見





られる。体力をつけるとか技術を磨くというイメージとはかなり違って、純粹に楽しむスポーツが行なわれている。丸山先生はバレーボールを拾いながら「まったく、ゆうことときかへんなあ」とボソリ。「でも、写真の取材だから今日はいつもと違ってずいぶんおとなしいですよ」ということは、いつもはどんなにヤンチャなのだろう…

「こんなスポーツがやってみたい」という要望があれば、指導できる人を地域の中からみつけてくる。自主運営のスポーツクラブらしい。この冬には初めてスキースクールを実施する。「スキーなら教えられる人がいっぱいいるでしょう」。

ただ、課題も残る。「メリットをつくり出すこと」だそうだ。「今まではお金をかさなくても学校を使わせてもらえたのに、どうしてお金を払うんだ」という意見もなくはないという。

しかし、たつみスポーツクラブが船出をして二年目。会員も順調に増えているし、みんな楽しんでるのは見た目にはつきりとわかる。

最近、「住まいは隣の市だけど、医者から運動をしろと言われて、たまたまこのスポーツクラブのことが知ったので…」と入会希望の電話もあつた。着実にスポーツクラブの活動も浸透してきた。

#### ■連絡先 たつみスポーツクラブ

TEL 〇七〇一六二八三二七二二六  
(受付時間午後7時30分～9時)